

授業科目	科目概要・形式	配当年次
母子家族看護学特論	2単位 30時間 必修	1年 前期
科目責任者	佐藤 愛	
担当者	佐藤 愛、谷川 涼子、室月 淳	
<b>1. 科目のねらい・目標</b> 母子家族看護学の対象を理解するために、周産期にある女性と子どもをとりまく健康生活と健康問題の特性を理解する。特に家族を形成していく過程を中心に、生活・健康上の変化や健康問題の特性と家族との関係性を理解し、その援助理論を学ぶ。また、母子家族看護学の基本を学ぶことで、家族を含んだ健康問題を包括的に査定するために必要な方略やその援助方法について考察する。さらに、最近のバイオエシックスなどの倫理的問題について理解を深め、母子家族看護学の実践と研究への適用のあり方を考察する。		
<b>2. 授業計画・内容</b> <b>【佐藤 愛】(5コマ)</b> 周産期にある女性とその家族の健康生活や遭遇する健康問題の特性について理解し、家族に効果的に支援できるような看護援助に必要な諸理論や業務管理、コンサルテーションに関する理論について、国内・外の文献をもとに学ぶ。 1) ケアの特性 2) 周産期の母子への家族中心のケア・・・支援システム 3) 周産期母子への地域ケア・・・ピアサポートも含めて 4) 周産期母子の健康生活を発展させるためのコンサルテーション、コーディネーション、マネージメント  <b>【谷川 涼子】(6コマ)</b> 小児各期にある対象の健康生活、健康の特性、および家族の状態も含めて健康問題を査定するのに必要な方略や援助方法について学び、小児家族看護学の実践と研究について考察する。 1) 母子家族看護学の研究の動向 2) 小児家族看護学における健康問題の特性や実践、研究  <b>【室月 淳】(4コマ)</b> 周産期にある母子関係の樹立、母乳育児、さらにリスクを背負った母子、生命的問題、低出生体重児、障害の問題等について、母子、家族その他の心理的問題を分析し理解を深める。 1) 周産期の特徴と問題点 2) 低出生体重児の出生と予後、さらに母子関係の問題点 3) 流産・死産、さらに「障害児」出産の問題点 4) 出生前診断のもつ問題点 などにつきできる限り討論形式で理解を深める。		
<b>3. 教科書、参考書</b> 講義の中で紹介する。		
<b>4. 成績評価方法</b> 参加度、レポートにより評価する。		
<b>5. 受講要件</b> なし		
<b>6. 社会人学生に対する配慮</b> 夜間開講、土曜開講に対応可能。		
<b>7. その他</b>		